薬剤情報

2024-12月　No.20

１．採用薬品情報（R6/12/2　薬事審議会）

1）新規採用薬剤

①ウゴービ°皮下注　0.25mg　0.5mg　1.0mg　1.7mg　2.4mg
薬価：0.25ｍｇ ¥1,876　0.5ｍｇ ¥3,201 1.0ｍｇ ¥5,912 1.7ｍｇ ¥7,903　2.4ｍｇ ¥10,740

【薬効分類】肥満症治療薬
【用法・用量】
通常、成人には、セマグルチド（遺伝子組換え）として0.25mgから投与を開始し、週1回皮下注射する。その後は4週間の間隔で、週1回0.5mg、1.0mg、1.7mg及び2.4mgの順に増量し、以降は2.4mgを週1回皮下注射する。なお、患者の状態に応じて適宜減量する。

②オゼンピック°皮下注 2ｍｇ
薬価：¥10,879

【薬効分類】2 型糖尿病治療薬
【用法・用量】
通常、成人には、セマグルチド（遺伝子組換え）として週1回0.5mgを維持用量とし、皮下注射する。
ただし、週1回0.25mgから開始し、4週間投与した後、週1回0.5mgに増量する。
なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、週1回0.5mgを4週間以上投与しても効果不十分な場合には、週1回1.0mgまで増量することができる。

③ケシンプタ°皮下注 20mg ペン
薬価：¥230,860

【薬効分類】多発性硬化症治療剤
【用法・用量】
通常、成人にはオファツムマブ（遺伝子組換え）として1回20mgを初回、1週後、2週後、4週後に皮下注射し、以降は4週間隔で皮下注射する。

④イムブルビカ°カプセル 140mg
薬価：¥8,848

【薬効分類】抗悪性腫瘍剤
【用法・用量】
〈慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）、原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫〉
通常、成人にはイブルチニブとして420mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。
〈マントル細胞リンパ腫〉
・未治療の場合
ベンダムスチン塩酸塩及びリツキシマブ（遺伝子組換え）との併用において、通常、成人にはイブルチニブとして560mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。
・再発又は難治性の場合
通常、成人にはイブルチニブとして560mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。
〈造血幹細胞移植後の慢性移植片対宿主病（ステロイド剤の投与で効果不十分な場合）〉
通常、成人及び12歳以上の小児にはイブルチニブとして420mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

⑤レクビオ°皮下注 300mg シリンジ
薬価：¥443,548

【薬効分類】持続性ＬＤＬコレステロール低下ｓｉＲＮＡ製剤
【用法・用量】
通常、成人にはインクリシランナトリウムとして 1 回 300mg を初回、3 ヵ月後に皮下投与し、以降 6 ヵ月に 1 回の間隔で皮下投与する。

2）後発品・メーカー変更・規格追加薬剤

なし

3）削除品目

ペルサンチン錠 25mg　（院外処方では継続使用）

メイアクト小児用細粒 10%（院外処方では継続使用）

2．新規 院外処方薬（院外処方箋でのみ処方可）

・ビタメジン配合カプセル B50
・プリビーシー液 0.02%
・エリスロマイシン錠 200 ㎎「サワイ」
・デカドロンエリキシル 0.01%
・ブロマゼパム錠 3mg「サンド」
・ヘマンジオルシロップ小児用 0.375%
・カナグル OD 錠 100 ㎎
・ボンアルファクリーム 2μg/g
・フルコート軟膏 0.025%
・インテバン坐剤 25mg

3．医薬品安全性情報

なし

4．添付文書改訂情報

イナビル吸入粉末剤 20mg　イナビル吸入懸濁用 160mg セット

経鼻弱毒生ワクチンとの併用について記載が追加されました。

1. 改訂の概要

≪自主改訂≫

「10.2 併用注意（併用に注意すること）」の項に、「経鼻弱毒生インフルエンザワクチン」を記載しました。

2. 改訂内容〔(　　)自主改訂〕

改　訂　前	改　訂　後
(新設)→	10. 相互作用 10.2 併用注意（併用に注意すること） 薬剤名等：経鼻弱毒生インフルエンザワクチン 臨床症状・措置方法：経鼻弱毒生インフルエンザワクチンの効果が得られないおそれがある。 機序・危険因子：ワクチンウイルスの増殖が抑制され、経鼻弱毒生インフルエンザワクチンの効果が減弱する可能性がある。

3. 改訂理由

≪自主改訂≫

「10.2 併用注意（併用に注意すること）」

抗インフルエンザウイルス剤によりワクチンウイルスの増殖が抑制され、経鼻弱毒生インフルエンザワクチンの効果が減弱する可能性があるため、併用注意に記載しました。